エッセイ 千字文

# 男もすなるボクシングを女もしてみむ

ジョー小泉

プロフィール
1947年神戸市生まれ。神戸大学工学部卒。ボクシングマニアで17歳から米国『リング』誌通信員。三菱重工業勤務の後、国際マッチメーカー（交渉人）。2008年、日本人として2人目の国際ボクシング名誉の殿堂入り。岡山大学客員教授（スポーツ科学）。

「六〇の手習い」という。ものを学ぶに遅すぎることはない。還暦前、ボクシング会場の喧騒のなかで書道家に声をかけられ、「もう一度習字をしたいと思っている」と応えた。それから徳村旭厳氏より文房四宝（筆硯墨紙）すべてを贈呈され、手本を頂戴し添削を受けることになった。

以後七年、歩みはのろくやっと五段まで来たが書道の世界は実に奥が深い。「目習い」といって優れた手本を見て感覚を磨き、名蹟を幾たびも臨書（模倣）せねばならない。大家といえども、つねに王羲之、顔真卿などの基本にもどる。

かなは漢字から派生したもので、その名作のひとつに高野切第一種がある。古今和歌集をかな書きしたもので、紀貫之筆といわれる。その書は優美かつ繊細である。貫之は「土佐日記」の最初に「男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり」と書いた。

ここで話を転じ、男のみすなると思われてきたボクシングに女性が参入している現状について書きたい。九月下旬、東京で女子だけの三大世界タイトルマッチが開催され、すべて日本側が勝利を収めた。これで日本人女子の世界チャンピオンは六名となり、男子の王者数に並んだ。サッカーのなでしこジャパン同様、日本の女子は敏捷で勇敢だから適性があるようだ。

書道において漢字とかなはおのおの特徴がある。前者は雄渾、後者は華麗である。ボクシングでも男子は力強く、女子は軽やかだ。ただし、女子ボクシングはいまだ過渡期で、いずれさらにスポットライトを浴びるだろう。

来年のロンドン五輪大会で女子ボクシングが正式種目に決まった。ここで国際的注目を集め、優勝者たちがプロ転向すれば、一挙に女子ボクシングが開花する可能性がある。

以前、筆者がマッチメークを手がけた女子の前WBAスーパーフライ級王者C（中国）は「アマチュアに戻り金メダルを狙う」という。それが許されるのか。かの国ならではの笑い話だ。

中国の人口は約一三億人で、本格的にボクシングに参入してきたら将来、強い女子選手が出現するかもしれない。北京五輪でも男子ではすでに二つの金メダルを獲得しているほどだ。余談になるが、一九世紀末、中国清朝で猛威をふるった義和団の乱を英語ではBoxer Rebellionという。中国にはコブシで闘う伝統があり、ボクシングと縁がなくはない。

この原稿のあとまた書道に戻る。いま書いているのが智永の「真草千字文」だ。つまり、この「千字文」の随筆から「千字文」の臨書へ。

月刊 みんぱく
12月号目次

1 エッセイ　千字文
男もすなるボクシングを女もしてみむ　ジョー小泉

2 **特集　ポピュラーアートって何?**
笑いがはらむ豊かさ　川口 幸也
4 「ポピュラーでないアート」を越えて　後小路 雅弘
6 「神さま絵画」の今日　三尾 稔
7 グアダルーペの聖母像
——歴史の変転がつくった「民衆の聖母」　岡田 裕成
8 「アート」と不釣り合いな日本マンガ　ジャクリーヌ・ベルント
9 美術としての刺青　宮下 規久朗

10 研究フォーラム
ミクロな視点でグローバルな支援のメカニズムをさぐる
信田 敏宏
12 みんぱく Information

14 地球ミュージアム紀行
切手の椅子
フィンランドの郵便博物館
近藤 雅樹
15 みんぱく私の逸品
セネガルのガラス絵
歴史と生活の記憶
三島 禎子
16 散策と思索の径
クリスマスタウンでの断想
アメリカ・ワシントン州シェルトン
横山 廣子
18 多文化をささえる人びと
あるベトナム語母語教室の軌跡
庄司 博史
20 歳時世相篇
お祭り三昧の年末年始
小林 繁樹
22 フィールドで考える
墓の手入れに行く日
松井 生子
24 次号予告・編集後記